

御所湖随想

H24年1月 No.34

冬の造形

新年を迎え、1日の朝の最低気温が - 17.7 (雫石のアメダスより) を記録しました。日の出は7時頃で、5時過ぎに最低気温になっています。私はTVの除夜の鐘を聞いてから



近くの神社にお参りに行ったのですが、その頃には - 13 くらいまで下がっていたようです。(9時半まで - 10 以下) 寒かったはずですが、その後寒冷(寒暖ではありませんよ!) を繰り返し、12日には再び - 14 と冷え込み、御所湖の湖面はまだ完全な結氷ではありませんが、ほぼ一面の氷となりました。

昨年は1月17日に全面結氷しています。

‘除園地より雫石スキー場方面を望む’

そんな寒い朝を迎え、御所湖畔を回っていた所、不思議な造形に遭遇しました。その画像がこれです。川岸のつららのカーテンです。川によって削り取られた崖の表土から水が滴っていたのか、幾つもの氷柱が出来ています。御所湖にはこれ以外にも‘雪と氷の芸術’が見られそうです。ただし、公園内の駐車場は積雪で使えないところがありますので、ご注意ください。



さて、御所湖随想 32でもちょっと触れましたが、植物の方言名を調べています。その中に『ツナミグサ』というのがありました。標準和名は『ヒメムカシヨモギ(キク科)』。この植物は北アメリカ原産の越年生草本で、明治維新の頃に日本に入ってきた帰化植物なのですが、鉄道沿いに広がったことから『鉄道草』、他に『御一新草』や『明治草』の別名もあり、荒れ地などにいち早く侵入します。『ツナミグサ』も津波によって流された裸地に一斉に生えたのでこのような名前が付いたのでしょうか。岩手の九戸地方での方言名として採録されています。

【第45回いわて雪まつり‘もっとずっと元気！いわて夢パーク’: 2/4(土)~2/12(日)】